

第 26 回 許すな!憲法改悪・市民運動

全国交流集会報告

山本みはぎ

2月23日から25日、大分市で第26回全国交流集会が開催されました。26回目の会場は、一昨年12月の安保3文書で軍拡と日米一体化が一層進む中、大分の敷戸駐屯地に新たな弾薬庫の建設が進められていることから、大分での開催となりました。

公開集会 飯島滋明さん講演

1日目の公開集会は、名古屋学院大学教授の飯島滋明さんを講師に、『「永遠の戦後」を求めて～軍事体制への動きを止めるために』をテーマの講演が行われました。



飯島さんは、「自公政権がめざす『戦争する国』作りは、先制攻撃をする国、戦争継続のために経済・社会体制の構築、軍事費増額、市民監視・反政府的言動の弾圧の4つを進めている。一昨年の安保3文書の「防衛力整備計画」で石垣島や宮古島など南西諸島への長射程のミサイル配備に加えて、奄美大島にも配備されれば、中国や台湾沿岸まで射程に入り攻撃が可能になる。また、自衛隊員が負傷した場合や戦死者すら想定して訓練が進んでいる。」そして今進んでいる事態は

「奄美・沖縄が最前線で、九州が後方支援」ではないと指摘し、「全国で約130ヶ所に新たに弾薬庫建設計画が進められている。大分分屯地（敷戸弾薬庫）には9棟を建設し、2025年には湯布院駐屯地には第8地对艦ミサイル連隊を新設する。北海道や四国、九州など全国の港湾や空港を防衛目的で整備拡充する計画も進んでいると指摘されました。戦争に向けての政治・経済・社会体制の構築では、情報保全隊を配置し、土地規制法によって住民の監視と規制をする体制を作っている。軍事費は12年連続で



増加している。憲法審査会では、不測の事態の時の国会議員の任期延長改憲論が自民・公明・国民・維新で画策されている。

このような状況で戦争をさせない取り組みについては「心の中に平和の砦を築く」(ユネスコ憲章)こと、学習会や様々な取り組みで市民に働き掛けること、そして「防衛と外交は国の専管事項」という主張に対して、戦後憲法は地方自治体にも「基本的人権の尊重」や「平和主義」のために行動をすることを課しているから、地方自治の強化が必要と指摘された。また、差し迫っている国政選挙では、改憲阻止の観点から維新の議席を阻止する必要があるとも指摘された。

市民運動交流会

2日目の全国市民運動交流会は、10時から5時まで行われました。市民連絡会事務局長の菱山南帆子さんからの基調提起がありました。菱山さんは、「各地で軍拡に反対する女たちの会やフェミブリッジが立ち上がり、女性が活発に活動し、ジェンダー平等と戦争反対の運動が広がっている。自民や維新の金権マッチョでしがらみや忖度、権威主義の政治を変えるには運動の中でも平等な関係性を作っていかなければならない」との発言がありました。

その後、各地からの報告が行われました。広島・呉からは、広島市長が、職員研修で「教育勅語」を引用している問題の指摘や、呉基地や岩国基地では自衛隊の南西シフトの中で「整備」が進められ自衛隊との「共存共栄」のような事態になっていることが報告されました。東京では、19行動を中心に行動し、イスラエルのガザ侵攻については「パレスチナに平和を!緊急行動を結成して活動を継続していることが報告されました。熊本の「平和を求める女の会」からは、熊本に建設された台湾の半導体企業「TSMC」建設によって懸念される地下水の問題と環境汚染の問題が指摘されました。沖縄から参加した具志堅高松さんは、南部の遺骨交じりの土砂が辺野古の埋め立てに



使われようとしている問題を指摘し、全国に広がる弾薬庫建設について、沖縄だけの問題ではなく全国の問題だと指摘されました。

地元の大分からは、「敷戸弾薬庫に当初 2 棟建設と言っていたが9棟の弾薬庫が建設されることになった。湯布院駐屯地には司令部機能を備えた300人規模の地对艦ミサイル連隊を新設される。弾薬庫周辺の住民説明会では十分な説明がされないまま建設が始まった」ことなどが報告されました。その他、横浜、日出生台、三重からの取り組みの報告がありました。土地規制法についての各地での取り組みが紹介されましたが、問題点が十分に浸透していないとの指摘もありました。ガザ侵攻のついての各地での取り組みも報告されました。

最後に、憲法「改正」について、岸田首相は任期中の改憲を主張し、憲法審査会の作業部会を作り改憲案をつくらと言っているが、いま議題になっているのは緊急事態条項ではなく衆議院の会期延長のみで立憲などが反対するよう注目する必要がある、と提案がありました。

飯島さんの講演や各地からの報告を聞くと、改めて南西諸島のみならず九州や日本全国で「戦争をする」国に向けて、自衛隊の再編、米軍との一体化、自治体を巻き込んだ(港湾・空港など)戦争準備が加速的に進んでいることに危機感を覚えました。全国各地に配備・保管される長射程ミサイルや武器の多くは、この愛知での軍需企業で製造されますが、それへのさらなる取り組みの必要性を改めて思いました。

また、飯島さんが指摘する「戦争継続のために経済・社会体制の構築、軍事費増額、市民監視・反政府的言動の弾圧」については時間的な制約もあったことから今国会に提出されたセキュリティクリアランス制度を盛り込んだ「経済安保版秘密保護法案」の問題が指摘されなかったことは少し残念でした。しかし、各地での粘り強いそして女性が中心になっている活動の報告から勇気もらい、市民運動の重要な役割を認識する契機になりました。

敷戸弾薬庫フィールドワーク

3 日目は、「大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会」の案内で、フィールドワークを行いました。敷戸弾薬庫は、陸上自衛隊大分分屯地(大分市駕野)内にある弾薬庫で、防衛省が湯布院駐屯地(由布市湯布院町)に新設するミサイル連隊の対艦ミサイルなどを貯蔵するとして建設を進めています。住宅

地の真ん中にあり、近くには大分大学などもあります。

2023年10月に行われた日米共同訓練レゾリュート・ドラゴンでは、敷戸弾薬庫から大分港に弾薬が運ばれ、海路でホワイトビーチを経由し嘉手納基地から空路で奄美大島の瀬戸内分屯地に運ばれています。有事の際にはミサイルや弾薬の補給基地として機能するということです。当然、有事の際の攻撃目標にもなります。

平時でも過去に他地域の弾薬庫で爆発事故なども起きています。春日井市の高蔵寺弾薬庫でも過去火災が起きるなど危険なこともありました。何より、ミサイル、とりわけここに保管される長射程ミサイルは「敵基地攻撃」ができるものです。武器・弾薬の製造保管など、戦争準備に反対する取り組みを全国の仲間と繋がって進めていくことが大事だと思います。



大分分屯地正門 基地内の工事の様子基地内の工事の様子



道路を隔てたところにある小学校と住宅



工事用車両が出入りする南門は道路の拡張工事が進んでいる

大分敷戸弾薬庫反対オンライン署名

↓

<https://www.change.org/yespeacenomissile>